

久米邦武 くみ くにたけ 國史學者、文學博士。天保十年七月十一日肥前國生

れ、昭和六年二月二十四日歿（八三—一九三三）。幼名泰次郎、通稱丈一

郎。號易堂、易堂學人。藩費弘道館を経て昌平坂學問所の學ぶ。維新

後新政府の出任、明治四年岩倉遣外使節に隨行、十二年修史館新修官、

二十一年帝國大學教授も、二十四年『史學會雜誌』の發表して「神道

は祭りの古俗」が保守派の批判せられ、翌年免官。二十八年東京專門

學校（のち早稲田大學）教授。

著書『稿本國史眼』全七冊（種田安齋 校全纂）上帙一四冊・明治二十二年

十月十五日、下帙一三冊・十一月二十一日帝國大學藏版、大成館發售、

江藤新平著・江藤熊太郎纂輯『南台遺稿』（批評、明治二十五年八月

二十日博文館）、『日本史學新說』（合著・廣池千九郎監輯、明治二十

五年十一月十日『百史學普及雜誌社』、斯止釜口述『耶穌基督真蹟考』

（筆記、明治二十年八月十四日岩崎堂刊）、『國字改良論纂』（合

著・堀江秀雄纂、明治二十五年七月二十一日金港堂書籍株式會社）、

『日本古代史』（明治二十八年七月二十四日早稲田大學出版部、再刊

・四十年一月二十五日『大日本時代史』（『奈良朝史』（明治四十

年五月二十五日早稲田大學出版部

『大日本時代史』（『大日本古代史

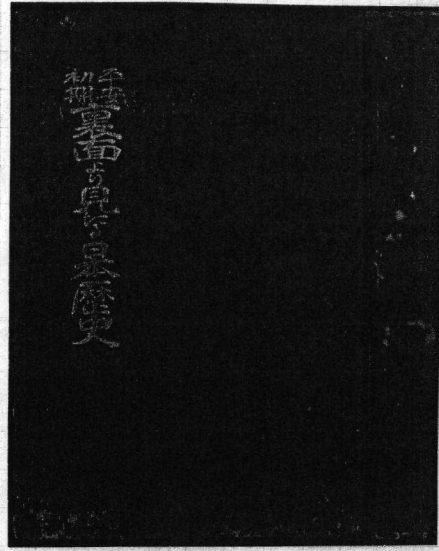
と神道の關係』（沖野岩二郎筆記、

明治四十年十月二十五日警覺社書店、

再刊『日本古代史と神道との關係』

昭和十四年五月五日創元社『日本文

化名著選』（『本史 初期裏面より見たる日本歴史』（明治四十四年一月



十七日讀賣新聞社)、 『織田信長』 (合著・小川多一郎、村田九筆編、明治四十年五月十日陸文堂書店「偉人研究」)、 『時勢と英雄』 (大正四年七月十七日廣文堂書店)、 『國史八面觀』 (大正四年十一月八日畿部甲陽堂)、 『裏日本』 (大正四年十一月二十日公民同盟出版部)、 『話と能のわげごち』 (合著・能樂放談會「坂江書寫、神田石秋編、大正七年四月二日畿部甲陽堂)、 『おぬき』 (合著・戸川發花編、大正七年十一月二日「進會書店」)、 『清和會書店』 (合著・國史の周圍觀』 (大正十二年七月十五日國史講習會「國史講習會録」)、 『御家騒動の研究』 (合著・國史講習會編、大正十四年五月十日雄山閣)、 『特命全權大使米歐回國實記』 全五册 (編、田中彰校注、昭和五年一月九日十六日一五十七年五月十七日岩波書店「岩波文庫」、再刊、二十年六月二十七日一十月二十五日岩波書店) 等。